

令和5年度学校経営報告

府中市立府中第十小学校
校長 草刈 あずさ

1 目指す学校

府中第十小学校 教育目標

児童一人一人のもてる力を伸ばし、個性豊かに世界に活躍する“府中っ子”を育てるために、次の目標の達成に努める。

○明るく健康な子ども ○ 仲よく助けあう子ども ○ すすんで学習する子ども

目指す学校像

ポジティブな雰囲気に溢れ、皆が活躍できる学校

- ・「もっと～したい」という気持ちが溢れる児童
- ・児童を育てるゴールイメージをもち、褒めて伸ばすことができる教師
- ・保護者・地域と双方向の連携を図る学校

2 中期的目標と方策

目標 1

児童の心に寄り添った指導の充実

- (1) いじめへの適切な対応
- (2) 子どもの「困り感」に寄り添う特別支援教育
- (3) ゴールイメージに向け、価値付け、褒めて伸ばす（自己肯定感、自己有用感）
- (4) 「あいさつ運動」などによる学校風土の醸成と自治のできる児童の育成

目標 2

学ぶ意欲の向上と個に応じた学びの充実

- (1) 問題解決的な学習、協働的な学習の充実
- (2) デジタルシティズンシップ教育の推進
- (3) 国際社会で通用するグローバル人材の育成
- (4) 地域のリソース（人材、環境）を活用した体力向上

目標 3

地域・保護者との信頼関係の構築

- (1) 二中学区の保育園、幼稚園、小学校、中学校との連携し、地域で子どもを育成
- (2) 地域の教育力及びコーディネート力を活用した教育施策の推進

目標 4

働き方改革の推進・全ての教育活動の基となる、教師力の向上

- (1) 会議や文書作成の効率化と共有化による勤務時間の短縮
- (2) ライフスタイルに合った働き方とキャリアアップ

3 今年度の重点目標と達成の状況

(1) 不登校傾向の児童への早期対応、不登校児童への多様なアプローチと学びの保障

方策 ・ サポートルームやフリースペース、文化センターなどの居場所や各種支援員、みらいのスタッフ、SSW、地域人材などの支援者のリソースを整理し、適宜、関係者で支援策を協議し、不登校児童の支援を継続的かつ効果的に行っていく。

目標値 昨年度に90日以上欠席した児童全員を、9月までにサポートルームやフリースペースなどの居場所への参加、もしくは、みらいやSSWなどの福祉的なサポートへとつなげる。

達成の状況

- 昨年度90日以上欠席した児童のうち、サポートルームや相談室などの学校内の居場所で学習をするために登校してきていた児童は5名いた。昨年度まで全日欠席していた児童が、サポートルームに登校してきていた時期もあった。
- 福祉を含め、支援につながっていない児童も数名いる。

目標値 10月までに、不登校児童への支援として、タブレット端末での授業支援を試行する。

達成の状況

- サポートルームや自宅で学習する児童に対し、児童や家庭のニーズに応じて、タブレット端末を活用したオンライン授業を行った。

(1) についての具体的取組と成果及び課題

① 具体的取組

- ・ 校内支援員会での協議の導入 ・ フリースクールやスペースとの連携
- ・ サポートルームでの支援（支援員による見守り、オンライン授業、課題の自習、児童相互のコミュニケーションの構築など）
- ・ 13日以上欠席児童への全員面接によるカウンセリングの実施
- ・ 登校意欲につながる魅力的なイベントや授業の工夫

② 成果

- ・ 13日以上欠席者への全員面接を実施することや、校内支援委員会での協議を通し、教職員の不登校児童への意識が高まった。
- ・ サポートルーム等を利用するために登校できた児童が、10名以上いた。

③ 課題

- ・ サポートルームで学習意欲が持続できるよう、過ごし方を検討していく。
- ・ 支援につながっていない家庭へアプローチを引き続き行う。

(2) アフターコロナの学校における体験的な学習の充実

- 方策**
- ・ 体育的・文化的行事や校外学習、体験的な学習、ゲストティーチャーを招いた授業などを、感染症等の状況を踏まえながらも、全面的な実施を目指していく。
 - ・ 各活動の在り方について、児童や教職員、保護者、地域の方々が考え、よりよい活動となるよう協議を重ねる。

目標値 各学年で、校外での活動や体験的な活動、人と交流する活動など、年間10回以上実施する。

達成の状況

○全学年とも、10回以上、校外での活動や体験的な活動、人と交流する活動などを行った。

(2) についての具体的取組と成果及び課題

① 具体的取組

- ・ 所属意識や勝敗なども味わえるような運動会の実施
- ・ 達成感が味わえるような学習発表会の実施
- ・ 各学年の取組

1年生は生活科で、多磨霊園にどんぐり拾いに行き、拾った素材などでおもちやを作って遊んだり、雪の日に雪遊びをしたり、季節を楽しみながら学んだ。

2年生は生活科で、地域の農家の方に野菜の育て方を教えてもらいながら学校園で野菜を育てたり、育てたとうもろこしでポップコーンをつくったりする活動を行った。

3年生は社会科と総合的な学習の時間で、学校の周りや府中市全体についての理解を深め、浅間山や学校内での自然観察を生かしたで昆虫の発表を学習発表会で行った。

4年生は総合的な学習の時間を中心に、「ともに生きる」をテーマに様々な障がいや人の生き方を学び、そこから学んだことや考えたことを、学習発表会で発表した。

5年生は、総合的な学習の時間で、保護者や地域の方の引率によるグループ別の校外学習を2回行い、府中市の魅力を調べたり、多磨霊園や公園、神社等の清掃活動を行ったりした。

6年生は、日光林間学校で自然や歴史に触れるほか、観劇や美術館鑑賞などの芸術に触れたり、がん教育や薬物乱用防止教室で外部講師の方の話を聞いたりして、視野を広げた。

② 成果

- ・ 運動会や学習発表会で、目的意識をもって取り組むことを通して、乗り越える力や協力する力を伸ばすことができた。
- ・ 4・5年生の総合的な学習の時間で新たに取り組んだ内容は、児童が生き生きと学んでおり、今後も引き継いでいきたい。

③ 課題

- ・ トップアスリートによる指導や総合的な学習の内容などは学年の意向による取組ではなく、学校としての系統性をもたせていく。

(3) 地域全体で子供を育てる風土の醸成と、地域や保護者と協働した教育活動の推進

- 方策**
- ・スクールコミュニティ協議会や青少年対策第二地区委員会等と協働した防災訓練の構築に向け、学校の避難訓練を公開する。
 - ・スクールコミュニティ協議会によるサマースクールを再開し、地域と協力して、児童の学力の定着を図る。

目標値 スクールコミュニティ協議会やPTA、保護者による協力を得る活動や学校の教育活動の公開などの機会を、各学期2回以上設ける。

達成の状況

○各学期に2回以上、学校の教育活動の公開や保護者による協力を得ることができた。

(3) についての具体的取組と成果及び課題

① 具体的取組

- ・スクールコミュニティ協議会による2学期の避難訓練（不審者対応訓練）の参観
- ・スクールコミュニティ協議会主催のサマースクールの実施
（1・2日目 第二中学校の生徒が20数名のボランティアを招いた学習教室）（3日目 明星大学の児童サークルを招いたイベント）
- ・保護者及び地域の協力によるグループごとに市内各所の探究活動や、学区域内各所の清掃活動、発表会への保護者の招待【第5学年新規取組】
- ・外部講師を招いたがん教育を実施及び保護者への公開【第6学年新規取組】

② 成果

- ・スクールコミュニティ協議会の協力により、夏季休業日の終わりにサマースクールを実施したことは、2学期の登校意欲の向上や生活習慣の見直しにつながった。
- ・学校公開日などに、多くの保護者が来校した。

③ 課題

- ・来年度は、学校公開の際に、学校とスクールコミュニティ協議会が連携した防災訓練を実施し、地域や保護者も含めた防災意識を高めることにつなげていく。

4 次年度以降の課題と対応策

① 不登校の未然防止 不登校児童への対応

- ・いじめ防止
- ・魅力的な学校行事
- ・カウンセリングとアセスメントの早期実施
- ・サポートルームとオンライン授業の充実

② 自ら学ぶ力の獲得 学習内容の定着

- ・児童が自ら学習する時間の確実な確保
- ・教員による授業改善（問題解決と習熟のバランス）
- ・タブレットの日常化

③ 生活指導と特別活動の連動による学校風土の醸成

- ・あいさつ運動や、いじめ防止、廊下等の歩行などについての代表委員会の取組
- ・児童発信のミニイベントの充実